

ねらい

高校生ともなれば、秩序正しく生活するために、著作権法をはじめとする様々な法知識を学ぶ必要がある。しかし中学校段階での学習状況はさまざまであり著作権に関する予備知識に大きな差が生徒間で生まれている。情報モラルの育成にもつながる著作権学習について、その差が縮まるよう、入学前から課題を課し通常授業につなげる、授業を実践した。

実践教育活動の構成・視点

入学後の授業で、基本的知識を補完し、平均化させることが目的であるため、あまり深入りさせることに注意し、かつ小冊子の解説だけに留まらず学習内容の質を高めるために次のような視点でワークシートを作成した。

- ・ 基本的な語句・用語を学ぶ。
- ・ 著作権のなかの権利の種類について学ぶ。
- ・ 著作権における条約の歴史や内容について学ぶ。
- ・ 知らないうちに侵害してしまった行為について、振り返る。
- ・ 定められた条件での自由利用について学ぶ。

教育活動の指導計画・スケジュール

社団法人著作権情報センターより、小冊子「はじめての著作権講座」の配布を受けるため、手配する。

***資料提供先** CRIC 公益社団法人著作権情報センター

<https://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/index.html>

↓

新入生登校日 情報科より小冊子とオリジナルワークシートの配布を行う

↓

最初の授業「情報」で、解答解説をしたのちワークシートを提出させる。小冊子の内容に準じた小テストも同時に行う。

↓

その後、「情報」の授業で著作権法をはじめとする様々な法知識を学ぶ。

教育活動の内容・流れ

まず、小冊子「はじめての著作権講座」の概要を解説する。小冊子を利用しながら解答解説を行う。特に時間をかけて指導するのは、過去において「知らないうちに侵害してしまった行為」についてである。自らのワークシートに記入しているものを発表させて、そこに含む問題点を抽出して、著作権法に照らし合わせる。他生徒の事例についても興味・関心を持たせて、あるべき姿・望ましい姿を想像させる機会をつくる。日常生活から、著作権を意識させて、基本的知識の補完や行動規範を作り上げていくことを重視する。最終的に、小テスト・定期考査を行い、高校生として学ぶべき著作権法などの法知識の学習に入る。

教育活動後の生徒の変容または教育活動の効果

生徒の客観的なデータとしては、小テストの平均点が、7割程度であることは基本的な知識習得が補完されたと考えられる。例年年度末には、教科独自で授業アンケートを行い、「カリキュラムで一番ためになったものは」という項目に、断トツのトップで「著作権学習」という回答が8割を占める傾向にある。生徒に、基本的な知識をはじめとする規範意識が存在していることが、読み取れる。

座学的な内容については、やもすると単調なペースを作り出してしまうが、入学直後に実施することによって、適度な緊張感で授業することができ、時期が効果を高めている側面もある。

成果と課題

生徒には意外と、小冊子のタイトルどおり、「著作権ってなに？」という思いをもつものが少なくな

い。そのような生徒に対して、基本知識から解説されているこの小冊子は大変取り組みやすく、オリジナルのワークシートと併せて活用することによって、学習効果を高めていると前述したデータ（6.で紹介した小テストと授業アンケート）からも感じる。この小冊子は、定期試験の範囲にも使用している。

ただ、著作権法の改正など昨今の著作権事情は、一時的な学習で終わるものでなく、継続的になされる必要性もある。いつまでも、基本的知識などの補完に終わることなく、現実的な対応力や判断力を育てる、刺激する、カリキュラムやワークシートの開発に力を入れることも求められている。

評価

能力	項目	S 期待している以上である	A 十分満足できる	B やや努力を要する	C 相当の努力を要する
関心・意欲 知識・理解	取りあげたテーマに関して自らの考えを述べている。	興味深い切り口で問題点を指摘し十分な量の根拠と独自の思索に基づき結論を導いている。	自らの問題意識に基づき、自らの考えをまとめているが、結論に独自性あるいは説得力にやや難がある。	問題意識は述べられているが、根拠を十分に調べられていない。	問題意識がなく、何を伝えたいのかが不明確である。
思考・判断	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができる。	指示通りに多様な思考力・判断力が身についている。	指示通りに多様な思考力・判断力が一定程度身についている。	指示通りに多様な思考力・判断力が必ずしも身につけていない。	多様な思考力・判断力が全く身につけていない。
知識・理解	問題を新規性や話題性等を考慮して適切に設定することができる。	適切で明確な問題を設定しており、独創性がある。	適切で明確な問題を設定しているが、独創性はない。	ある程度、明確で適切な問題を設定している。	ある程度明確な問題を設定しているが、適切な問題であるとはいえない。